

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社アライブメディケア		ホーム名	アライブ武蔵野御殿山		ID	2904	
	評価機関	株式会社 ケアシステムズ				評価日	2018/1/12	
スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.2.1	B	A	2.3.7	B	B	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.4	A	A
1.2.3	B	B	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	B	B	7.3.1	B	B
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	B	B
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	B	B	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	C	B	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	B	B	5.2.2	A	B	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	B	B	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
4-1-4	市の「いきいきサロン」事業として施設内の地域交流スペースを活用し、むらさきの会（地域の自治会）が活動を行っている。サロンでは毎週体操やゲームなどで地域の高齢者が楽しんでおり、入居者も一緒に参加するなど交流を行っている。また、月に1回保育園児も交流スペースに遊びに来るなど憩いの場となっている。施設はサロンに地域コーディネーターを配置するなど、地域の高齢者とともに入居者の生活の幅を広げるための支援を実施している。
1-4-1	職員一人ひとりの育成を図る仕組みがあり、会社の目標やホームの目標を踏まえたうえで、職員には行動指針目標や業務目標を立ててもらい、施設長は年2回の個人面談で掲げた目標の年進捗状況を確認しながら、職員の取り組みを支援している。また、結果は処遇にも反映させ職員のモチベーションアップにもつなげている。
7-2-1	当施設の優れた点として利用者1.5対職員1.0の職員体制をとっており、個別ケアが十分にできる場所があげられる。男性の利用者Aさんは他者との交流を好まない方で一人居室へ閉じこもっていることが多かった。居室担当者をはじめとし各職種の職員と検討した結果、ネコ好きのAさんをネコカフェへお連れし、月1回の保育園児との交流時に朗読をする役割をもってもらうことで、少しずつ気持ちが和らいでいった。きちんとアセスメントを行い、個別ケアとしてケアプランに活かして実践したことで良い結果が生まれている。
7-4-1	利用者の排泄の自立に向けた事例として、病院から入居してきたBさんはベッド上でのおむつ交換と尿器を使用していた。入居後、生活の場に環境が変わったことでBさんのリハビリに対する意欲は向上する。ご本人の意向もあり、ケアマネジャーは自立に向けての排泄ケア計画を立て、その計画のもとに介護職員と看護師、機能訓練指導員が一丸となっておむつはずしに取り組んだ結果、おむつからリハビリパンツへ移行し、現在はリハビリパンツから布パンツとなり、ほぼ自立での排泄が可能となっている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
2-1-1	会社は自主行動基準を作成し会社の概要や就業に関するルール、コンプライアンスなどを盛り込み、入職時研修や毎月の業務会議で確認するなど職員に周知を図っている。なお、施設は開設して1年半であることから、会社の目指していることについては職員の理解を深めてもらい、全員がベクトルを合わせ施設の運営やサービスの質の向上にさらに取り組むことが期待される。
2-1-2	施設の基本目標及び計画が策定され部門別の目標も明示している。年間目標に対する行動計画やチームスケジュールは、ホームプロジェクト研修で話し合われている。また、食事委員会やリハ委員会などの各委員会を設置しそれぞれ活動を振り返っている。施設の計画はできるだけ具体化し、現場職員の参画のもと定期的に振り返り、成果や課題を明確にしながら推進するとよいと思われる。
2-4-3	施設ではリスクマネジメント委員会があり、事故予防と再発防止対策について話し合われている。その中で事故報告書とヒヤリハットについて考察してみた。この半年間で事故報告書は125件、ヒヤリハットは56件報告されている。この結果からもヒヤリハットの報告件数は少なく事故報告書では、あざや落葉などが多い。事故報告書の中でヒヤリハットに該当するのではと思われるものもあり、事故報告書とヒヤリハットの線引きの整理が必要と思われる。再度見直しの上、事故予防に努めることが望まれる。
6-2-1	ケアプラン作成時前に、居室担当者がアセスメントをし内容をパソコンに入力している。半年に一回ケアプランの見直しをし、ケアプラン作成のためのカンファレンスは居室担当者が出席しやすい時間帯に各専門職も参加して実施している。家族の参加は別の日に施設に来てもらい、ホーム長とケアマネジャーが面談をし意向を伺っている。都合が悪い家族へは手紙を出し、照会書にて要望を聞いている。現在、人員配置の問題もあり一同に会したカンファレンスを行うことが難しい場合があるが、今後、本人・家族が参加するカンファレンスの開催が望まれる。